

タアサイ
(アブラナ科)

春播きと秋播きが作りやすい。耐寒性が極めて強く、霜に当たると甘みが増す。

作型	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
春まき栽培					○	—	■						
秋まき栽培		■							○	—	■	■	

1) 適地

土質は特に選びませんが、排水がよくて有機質を多く含んだ保水力のあるところが適します。

2) 品種

葉の大きいものや、しわの多少など、いくらか違うものがあります。立性のものとして緑彩1号、開張性のものとして緑彩2号がありますが、品種分化はほとんどありません。

3) 作り方

【圃場の準備】播種の1か月前に堆肥を1㎡当たり2kg、苦土石灰100g、BMようりん30gを施用して耕耘します。播種の1週間前に、1㎡当たり高度化成肥料40gを施し、幅100cm畝を立てます。

【播種】条間20~30cm（秋播きは広くする）の条播きにします。覆土は種子が隠れる程度とし、軽く鎮圧したらモミガラや切りワラを敷き、灌水します。セルトレイで育苗して移植する方法でも構いません。その場合は、黒ポリマルチをすると生育が揃い、雑草も防止できます。

【間引き・追肥】発芽後から本葉5~6枚の間に2~3回に分けて間引きします。最終株間は株が立性となる春播きは15cm、開張性となる秋播きは20cmとします。追肥は最終間引き後に1㎡当たり高度化成肥料を20g程度施用し、中耕と土寄せをします。

【収穫】春播きは草丈が20cm程度、秋まきは株の直径が20cm程度になったら収穫します。秋播きはトウ立ちの心配がないので収穫できる期間が長くなります。一度寒さに当ててから収穫すると、うま味が増します。

4) 病虫害防除

暖かい時期はアブラムシ類やアオムシ、ヨトウムシ類が発生します。登録農薬が少ないため、寒冷紗のトンネル掛けで被害を軽減するように努めます。